

黄疸（おうだん） ～病気のサインです～

●黄疸ってなに？

黄疸とは、ビリルビンという黄色い色素が血液中に増加し、全身の皮膚や粘膜に過剰に沈着して黄色く染まった状態を意味します。だるさ、皮膚のかゆみ、尿の色が濃くなる等、他の症状を伴うことがあります。

黄疸はふつう、眼球結膜(白眼：しろめ)から始まります。眼は白いままなのに手のひらが黄色い場合は、かんきつ類等の食べ過ぎによる柑皮症（かんぴしょう）を考えます。これは黄疸とは異なり、病気ではありません。

●黄疸の原因って？

ビリルビンは、肝臓で処理されて胆汁の中に排泄されます。そのため、肝臓が機能しなかったり、胆汁の流れが悪かったりすると、黄疸が出現します。

また、血液中の赤血球が大量に破壊された時も、ヘモグロビンという赤い色素がビリルビンに変わるため、処理が追いつかなくなって黄疸が出現します。

その他、体質性黄疸といって、生まれつきビリルビンが処理できないことによる黄疸もあります。

●どんな病気が考えられますか？

・肝細胞の障害によるもの（肝細胞性黄疸）

急性肝炎が代表的です。ウイルス、薬剤、アルコールなど様々な原因で起こります。肝細胞の機能がかなり低下した肝硬変の人にもみられます。

・胆汁の流れが障害されるもの（閉塞性黄疸）

結石や腫瘍が、胆汁の排泄路である胆管をふさいで起こるのが、閉塞性黄疸です。この場合、胆管に重症感染を起こすことがあり、胆汁の流れを確保する処置が早急に必要になります。肝臓組織の中で胆汁の流れが悪くなって起こる肝内胆汁うっ滞は、薬物療法となります。

・溶血によるもの（溶血性黄疸）

赤血球が破壊される病気では、貧血を伴います。不具合のある赤血球を処理する脾臓が、腫れて大きくなる場合があります。骨髄検査も必要です。

黄疸が認められる場合は、血液検査で血液像や肝機能を調べ、超音波検査・CT検査を行い、早急に原因をつきとめて治療法を判断する必要があります。

詳しくは内科担当医にご相談ください。

（文責：櫛田）